

全国障害者問題研究会の研究誌

# 障害者問題研究

第 50 巻 第 1 号

特集

## 入院中の子どもの 教育

Vol.50

No.

1

### 障害者問題研究 50 巻 1 号を読む会

■1■ 栗山宣夫さん（育英短期大学）

小児がん等の難病で入院中の高校生の教育保障の動向と課題

■2■ 寺田和樹さん（成田赤十字病院）

高校生がん患者に対する教育支援の取り組みとその成果

■参加者の意見交流■

日時 6月20日（月）19時～20時半

■zoom ミーティングによる開催



○参加費は無料です。

○お手元に当該号をご用意ください。

○読む会参加申し込みフォーム(右)からも注文できます。

お申し込み



<https://forms.gle/9JnD9a3c9xxQ23Gu7>

問い合わせ 全障研事務局 info@nginet.or.jp

当事者を対象としたアンケート調査や当事者の語りなどにより、入院中の子どもの教育的ニーズに答えていくことの重要性が示されているが、その実現のためには「入院中の保育・教育機会の保障」「子どもの心理をふまえた支援の内容・方法の充実」が必要である。

「入院中の保育・教育機会の保障」という点では、義務教育段階と比べると高校生については極めて遅れているといわざるを得ない現状がある。病院内学級高等部の少なさ、学籍異動ができない（年度途中の復学ができない）、単位認定や教科の専門性確保等の課題が山積している。本特集ではこの制度的な問題についてその全体像を栗山が論じ、この課題克服に向けて具体的な工夫を行っている病院・学校の実践について寺田が報告した。

また、「子どもの心理をふまえた支援の内容・方法の充実」に向けて、谷口論文では学習支援に留まらない教師による心の支援のあり方について、入院中の子どものストレスの種類・特性とも照らし合わせながら論じている。さらに副島論文では、この心の支援に応え得る病院内学級担当教師の専門性について論じている。

医療技術の進歩により小児がんの中で最も多い小児白血病の治療成績は急速に向上し、現在では長期生存率が約 75%となっている。命が助かるケースが増えてきたことは何よりであるが、その治療は長期にわたり入退院を繰り返す（1回あたりの入院期間の短縮化）など、通常学校との連携・協力の重要性は一層高まってきている。

また、がん患者全体において小児がんの患児は比較的少数（年間 2,000 人～2,500 人）であり、小児がんの特性から治療する病院の集約化が進められているという事情のために、自宅から遠く離れた小児がん拠点病院・連携病院への入院を余儀なくされるケースが多い。

地元の学校と切り離された状態を回避する手段として、ICT 機器の活用による遠隔授業が注目され始めている。コロナ禍前より病弱教育の領域ではその必要性を訴えていたが、なかなか進まなかった。それに対して、コロナ禍

において遠隔授業への社会認識に変化が生じた。しかし、ICT 機器で通常学級と繋がれば教育支援として十分というものでは決してない。それらは谷口論文や副島論文でも明らかである。篠原は、ICT を使用して通常学級と回線を繋げるだけではない、教育的なニーズと繋げるコーディネーターとしての役割について、実践事例を通して示している。

小児がんの発症年齢として最も多いのは就学前である。病棟保育士の導入が進み始めているが、養成課程は十分ではなく、病棟保育士の専門性とは何か、その役割とは何かを検討する必要がある。林はそれについて病棟保育士としての経験もふまえて示している。

最後に、国際動向として北欧諸国の取り組みについて、高橋が実際の訪問調査を通して紹介している。今後の日本の取り組みを考える際に、海外の動向を理解することは重要である。

入院中の子どもの教育機会の保障と質の充実を進めるために本特集が役立つことを切に願う。

#### **特集にあたって** 栗山宣夫 1

小児がん等の難病で入院中の高校生の教育保障の動向と課題 ●栗山宣夫 2  
入院中の子どもの心の支援——“寄り添う支援”と“育てる支援” ●谷口明子 10  
入院中の子どもを支える教師の専門性とは何か——院内学級の教師の教育観を考える ●副島賢和 18

#### **報告・動向**

病弱総合支援学校のセンター的機能を活用した入院する高校生の学習支援  
——高校生学習会と同時双方向型配信授業の取り組み ●篠原淳子 26  
成田赤十字病院における高校生がん患者に対する教育支援の取り組みとその成果 ●寺田和樹 32  
病棟保育の現状と課題——病棟保育の専門性を高めるために ●林 典子 37  
スウェーデンにおける病気の子どもの教育ケアの動向 ●高橋 智 43

#### **連載 実践に学ぶ**

特別支援学校中学部の実践 「ぼくの気持ち、わかってくれる？」 堂 章世 49  
【堂実践に学ぶ】黒田吉孝 55  
高齢家族と障害者支援の実践 子どもより先には死なない 大田哲嗣 57  
【大田実践に学ぶ】田中智子 63

#### **連載 ワイドアングル**

介護保険制度の経過と現状、今後の政策課題について 林 泰則 65

**動向** 生きる力を支える小児緩和ケアとこどもホスピス 田川尚登 72

#### **書評**

内藤千尋著『発達障害等を有する非行少年と発達支援の研究』 評者 金子陽子 78



## ●読む会へのおさそい●

障害の重い子どもにも、病気の子どもにも、すべての子どもに教育権は保障されなければならない——私たち、全国障害者問題研究会は、そのことを大切に、けしてゆるがせにしないことを研究運動に位置づけてきました。

入院中の子どもには、途切れない教育の必要と、入院中だからこそ必要な教育があります。今回は、ことに小児がんの患児の置かれている状況をふまえて、その教育のありようを考えます。

読む会では、現時点の制度的課題の第一である義務教育後の高校生段階での教育保障について栗山宣夫さんの報告と、かつて患児であった寺山和樹さんが現在は医師として勤務病院における学習空白の克服や通っていた学校との交流などの教育支援をおこなっている報告を、取り上げます。

病気の治療をしながらも、あるいはだからこそ、子どもの発達にふさわしい生活や遊びの充実を、未来に希望のもてる学びを、専門性を備えた従事者の育成と、制度や環境の条件整備によって達成したいものです。

病児教育・病院における教育に関心のある方、教育の権利保障を考えたい方に、ひろく参加をよびかけます。

### ●読む会は、現在リモートで行っています。

全国各地から、教員・療育・成人分野・当事者・家族などさまざまな立場、職種がひとつの場集い、学び合い、語り合います。



お求めは

全障研出版部

新宿区西早稲田 2-15-10 西早稲田閘口ビル 4 階  
電話 (03) 5285-2601・FAX (03) 5285-2603・nginet.or.jp

